

＜空の安全・安心を！整理解雇四要件を守れ！＞

2024. 9. 12

JAL闘争を支える京都の会News No.108

京都市東山区今熊野南日吉町 17 FAX: 075-531-3856 E-mail: komai123@kfa.biglobe.ne.jp

争議解決なくして安全なし！

JAL争議の早期全面解決を！

2024年8月20日、大手筋商店街（京都市伏見区）で、JAL不当解雇撤回争議勝利をめざす宣伝行動をおこないました。「JAL闘争を支える京都の会」が呼びかけ、「きょうとユニオン」、「なかまユニオン」、「自立労連」、「合同纖維労組」、「米軍Xバンドレーダー基地反対・京都連絡会」、「憲法を生かす京都の会」の皆さんなど、猛暑の中でしたが計18人にご参加いただきました。今回の宣伝行動にはJAL客乗争議団の神瀬麻里子さんが参加しました。

神瀬さんは以下のように訴えました。「私は33年間、JALの客室乗務員を勤めてきた。JALの安全のために一生懸命働いてきた。それが2010年の大晦日、164名の仲間と共に解雇になった。なぜ、解雇にならなければならないのか、それがわからなくて不当な解雇を糾すために13年間運動をしてきた。JALが解雇したのはパイロット81名と客室乗務員（CA）84名だった。その全員が20



年、30年以上の経験を持つベテラン社員だった。航空会社の最大の目標は安全である。その安全を守るために長い年月、そして経験が必要である。今日もJALの飛行機が京都の上も飛んでいるが、安全は一朝一夕でつくれるものではない。先日39年目の8月12日ということでJAL123便事故のことが取り上げられていた。風化させてはいけない、私もその通りだと思う。しかし、今のJALの中には、あの1985年当時、働いていた人はほぼゼロになっている。今年4月からJALで初めて女性が社長になったが、その彼女が入社したのは事故が起きた1985年である。だから本当に経験を引き継ぐ人がいなくなってしまっている、経験を語り継ぐことができなくなっているというのが今のJALの状態である。

なぜならば新しく客室乗務員を雇っても雇ってもやめていくからである。年間500名、600名の方がCAとして入社し、希望を持ってフライトを始めるのであるが、あまりにも賃金が低い、そして仕事がきつい、そういう理由でどんどんとやめていく。私たちが解雇になったのは2010年の年末であるが、それから13年と半年が経つが、JALはその間6000名以上の客室乗務員を採用している。しかし、誰も長く勤めることができない、長く勤めることがとても難しい、そんな職種になってしまった。同級生が銀行に勤めているが、私のほうが賃金が低い、こんな危険な仕事、お客様の安全を守る仕事をしているのに、何故なんだろうか、そのような声が職場からは聞こえてくる。そして部品が足りない、時間が足りない、人が足りないという声も毎日のように聞こえてくる。1985年8月12日に520名もの命が奪われてしまった。それ以降は死亡事故は起きていない。しかし、今年1月2日に羽田空港で衝突事故が起きてしまった。JALの乗客に死者や重大な怪我人は出なかったものの、海保機の5人が不幸にも命を落とされた。JAL機の乗客全員が無事に脱出できたのは、ひとえに乗務員の日頃の経験の積み重ねの成果だと思う。どうぞ、ぜひ私たちの運動にご理解とご協力をよろしくお願いします。」と訴えました。なかまユニオンの○さんらもJAL不当解雇撤回をマイクで訴えました。



神瀬さん（JHU）の参加報告（JAL不当解雇撤回争議団のfacebookから）

2024年8月20日

京都の大手筋商店街で宣伝を行いました。暑い中にも関わらず、手を伸ばしてビラを受け取ってくださる方が多かったです。

訴えを聞いて、「そうやな！そのとおり。私の娘もANAで働いていたからわかるわ。」と声をかけてくださる女性もおられました。鳥取社長は解決を決断せよ！

2024年9月7日

京都総評第96回定期大会に参加させていただきました。壇上で争議団として紹介を受け、ロビーの物販コーナーではたくさんの方がご購入くださいました。いつも本当にありがとうございます！



次回 宣伝行動 (呼びかけ JAL闘争を支える京都の会)
9月24日（火） 午後2時～3時 伏見・大手筋商店街